

2022 年度春季大会 開催報告

主催：公益社団法人日本語教育学会

開催日：2022 年 5 月 21 日（土）・22 日（日）

会場：オンライン開催

公益社団法人日本語教育学会では、年に 2 回の全国大会を実施しています。コロナ禍において、2020 年秋季大会以降は全面オンライン開催となりましたが、今後は春季大会を全面オンラインで、そして秋季大会は対面で開催することが決定しました。今大会の会長挨拶においても、「ともに集い、行動する学会として、両形態による開催を通じて一層の公益性と多様性、そして相互作業による有機的空間を提供し、日本語教育の学術および実践の創造と進化の共有を推進したい。」との、学会としてのビジョンと抱負が語られました。大会委員会は、これまでの経験とノウハウを活かして、今後もこのような有機的空間を提供していくための企画・運営を担ってまいります。

公益社団法人日本語教育学会
2022年度春季大会 会長挨拶



この度の2022年度春季大会の有料プログラムへの事前参加登録者は 938 名(招待・関係者含む)で、47 都道府県および世界の 47 の国・地域からの参加がありました。大会期間中、口頭発表 24 件、ポスター発表 20 件が審査・運営協力員の協力を得て行われました(詳細は右記をご参照ください。[大会プログラム](#)／[発表要旨](#)／[大会予稿集](#))。発表内容としては、研究動向や教科書の史的変遷に関するレビューや、看護・介護関係者、機能実習生、地域住民、外国人高校生を対象とした多様な社会的文脈における研究、プログラム・教材・ツールの運営・運用上の課題に至るまで、多彩で幅広いテーマが取り上げられました。



また、大会の1日目には、「日本語から広がるライフキャリア形成—世界を、日本語と生きる—」という一般公開プログラムが世界各地をオンラインで結んで行われました(調査研究推進委員会)。このほか、「日本語教育研究・実践ネットワーク(Net-J)研究会紹介ブース」(学会連携委員会)、「わかばさんいらっしやい」(チャレンジ支援委員会)が開催され、国際連携委員会と文化庁委託事業特別委員会による各種説明会も実施されました。2日目

にも口頭発表とポスター発表のほかに、事前申込者を対象とした「ぷらさ da わかば」(チャレンジ支援委員会)や、国際交流基金日本語国際センター、国立国語研究所、国際協力機構青年海外協力隊事務局による説明会が行われました。また、両日を通じて、学会の賛助団体会員による各団体の紹介や、最新情報の発信、書籍・教材の紹介等が行われました。

以上のように、日本語教育学会の 2022 年度春季大会は、最新の研究と実践の成果の発信・共有や、参加者間の交流・ネットワーキングの促進を目的として開催され、国内外の多くの方々の参加をもって盛会のうちに終わることができました。大会委員会は、参加者の方々よりお寄せいただいた声にも真摯に耳を傾け、今後の大会の企画運営面の改善に生かしてまいります。

次回の[秋季大会](#)は、2022 年 11 月 26 日(土)・27 日(日)に、姫路市にて対面で開催の予定です。

(文責：大会委員会)